



高橋 佐代子 議員
(改革未来・自民の風)

加西市クリーンセンターについて



問 平成 26 年度から 3 市広域連携により共同処理が開始され、加西市クリーンセンターの焼却炉は廃止となり、受入れが変更された。現在の運営状況は。

答 職員及びシルバー人材センターの作業員合わせて計 8 名で受入業務を行っています。令和 5 年度の搬入量は約 1,900 トン、搬入台数は約 1 万 6,800 台となっており、平成 25 年度の約 1 万 2,200 トンと比較して約 84% 減少しています。

問 共同処理によるコスト削減効果額及び平成 26 年度以

降の新規施策とその事業費は。

答 広域連携によるコスト削減効果額は、令和 5 年度決算額では約 1 億 700 万円です。また、新たな市民サービスとして、粗大ごみ拠点回収事業、剪定枝等のリサイクル事業、指定ごみ袋の値下げ及び粗大ごみ手数料減額を平成 26 年度以降で行っており、新たな経費として約 6,600 万円が必要となっています。

問 加西市では剪定枝や刈草を受入れ、野焼き等が以前より減少し、循環利用促進と環境負荷の軽減にもつながっている。加西市クリーンセンターでの剪定枝や刈草の受入状況及び効果は。

答 平成 26 年度 423 トン、令和 5 年度では 996 トンを再資源化物として受入れを行っています。また、堆肥製造業者とタイアップを図り、市オリジナルの堆

肥として安価で提供しています。効果としては、循環利用促進による環境的効果、設備の延命化による施設的效果があります。

問 加西市クリーンセンターの焼却炉は平成 26 年度に廃止となっている。公共施設の適正な維持管理の観点から解体撤去工事の施工時期について伺う。

答 令和 6 年度は施設内のダイオキシン類、アスベスト等の事前調査を行っています。令和 7 年度に解体計画、概算工事費の算出を行い、令和 8 年度に解体工事に着手する予定です。

■その他の質問項目

- ・高齢者の生きがいづくりと社会参加について
- ・加西市社会教育施設の課題について



中右 憲利 議員
(令和新風加西)

アクアス周辺の開発



問 線引き廃止に向けた現在の状況について。

答 8 月 30 日の兵庫県都市計画審議会において、①加西市を東播都市計画区域から分離して加西市単独での都市計画区域とする。②加西市都市計画区域は線引きのない非線引き都市計画区域とする。③令和 8 年 3 月を目標にこれらの都市計画決定を行う。と決定されました。これらは県の正式発表の後、予定どおり法手続が進められるものと認識しています。

問 地元区長や役員、市担当者等の話合いでは、下里川を挟んで南側を住宅地、北側 2 ヘクタールを産業用地という話だったが、それでは住宅の戸数が 25 戸から 30 戸と大変少ない。徒歩圏内にイオンがあり、小中学校も大変近く住環境に恵まれているので、川の北側にも 30 戸以上の住宅用地を用途区分として指定していただきたいが、いかがか。

答 必ずしも現段階でゾーニング及び区画数を確定するものではありません。地元、地権者、関心を持つ開発事業者と共に、よりよい案を検討していきます。

問 基本的には民間の開発となると思うが、「何を建てられる土地か」という用途区分については、まずは市が意向を示すことになるかと思う。地域と加西市

の発展のため、住環境に恵まれたアクアス周辺に 60 戸以上の住宅地をと思うが、改めて市の考えは。

答 住宅用地の需要の優劣について、アクアス周辺の土地は立地において一定の優位性があると考えます。住宅用地の戸数設定については、地元の意向や需要見込みを勘案しながら、よりよい計画ができるよう努めます。

問 この土地に隣接して、全国的に有名な企業の 100% 子会社がある。工場拡張の打診等をしてもいいと思うが、いかがか。

答 個人所有地の開発に係る件のため、市からの問合せは難しいと考えます。ただ、開発意欲のある事業者が手を挙げられた際には、営業活動の一環として、周辺の企業にお声がけをするということは十分に考えられます。